

2026年度 公益社団法人日本地すべり学会東北支部 第42回総会議事録

開催場所：エル・パーク仙台 5F セミナーホール 1

開催日時：2026年5月22日(金) 14:00~14:45

総会司会進行、議長：森口支部長

壇 上：森口支部長、高見副支部長、瀬野幹事長

参加者：リモート出席+会場出席 50名（正会員） 委任状 54名 合計 104名

1.開会

2.支部長挨拶

森口支部長より総会に先立っての挨拶があった。

- ・支部「運営規則」第12条の2項「支部総会の議長は、支部長がその任にあたる」との規定により、本日の議長を務めることを告げた。
- ・現在の正会員数189名に対し、正会員の1/2以上の出席を満たすことから、本総会は成立していることが告げられた。
- ・議決にあたっては、支部「運営規則」第14条の2項「議決は、出席会員の過半数をもって決する」ことが告げられた。
- ・総会議事録の作成を山本幹事が行うように指示した。

3.議事

○第一号議案 2025年度事業報告

- ・瀬野幹事長が事業報告を説明した（議案書 p1~5）
- ・2025年度支部総会は対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催した。総会では第一号議案~第五号議案まで審議し、全ての議案の承認を得た。
- ・2025年度は役員会1回（2026/2/17）、幹事会1回（2025/9/9）をそれぞれ開催した。
- ・事業企画委員会は計3回開催し、主に講演会の企画・立案について協議した。
- ・巡検計画委員会は計3回開催し、主に現地検討会の開催・運営について協議した。
- ・研修委員会は、若手現地検討会等の企画・立案・運営について、計5回開催した。なお、2025年度の若手現地検討会は、青森県の権現崎地すべりにおいて、現地確認及び検討結果のワーキングを開催した。
- ・運営委員会は1回（2026/3/10）開催し、2025年度事業実行状況の報告、決算報告の承認、2026年度事業計画に関する方針説明、2026年度総会議案書の審議を行った。
- ・2025年度は3回講演会を実施した。第1回講演会（2025/5/23）、第2回講演会（2025/11/11）及び第3回（2026/3/19）は、対面とWEB配信を併用したハイブリッド方式にて開催した。

- 2025年度地すべり現地検討会は福島県可沼郡柳津町「高森地すべり」にて実施した。
- 若手技術者への技術継承と若手同士の人脈形成を目的として、本部の若手対策事業費を活用し、演習と現地研修を含む実践的な研修（オンライン研修及び現地検討会）を実施した。
- 支部だより第36号を2025年12月20日に発刊した（印刷255部 発送255部）。また、支部ホームページの更新、情報発信、各種事業案内・参加募集、支部行事等の掲載などを行った。
- 講師として、（一社）秋田地質調査業協会「令和7年度地質調査研修」へ奥山ボーリング（株）藤井登氏、宮城県砂防ボランティア協会研修会へ（株）復建技術コンサルタント 押見和義氏を派遣した。
- 関連団体への後援・協賛を行った。
 - （一社）地盤品質判定士会東北支部「住宅の基礎・地盤に関する講演会」（2025年5月9日）
 - （公社）土木学会令和7年防災に関するシンポジウム「災害査定のこれまでとこれから」（2026年1月21日）
- 日本地すべり学会東北支部創立40周年広告を2025年4月30日付け河北新報に協賛企業13社の紹介とともに掲載した。

※第一号議案に関して質問や意見等は無く原案通り承認可決された。

○第二号議案 2025年度収支決算報告及び監査報告

- 大澤事務局長が収支決算報告内容について説明した（議案書 p6～7）。
 - 今年度は協賛金を20,000円/団体として協賛いただいている。
- 2025年度の収支決算は以下のとおりである。
 - 収益 1,615,901円 支出 1,609,546円
 - 次期繰越額 1,330,720円+6,355円-5,200円=1,331,875円
- 監事である渋谷 保氏、橋本 修一氏が監査結果を報告した（議案書 p8）。

※第二号議案に関して質問や意見等は無く原案通り承認可決された。

○第三号議案 2026年度事業計画（案）

- 瀬野幹事長が2026年度事業計画（案）を説明した（議案書 p9～10）
- 役員会、運営委員会、幹事会・各委員会の開催を計画している。
- 講演会は、地すべり調査、研究に関連する成果についての講演及び話題提供として計3回の開催を予定している。
- 「斜面変動研究のワーキング」として、支部若手～中堅会員を対象とした研究、情報交換の場として勉強会グループを募集し、成果を支部内（研究発表会、HP等）で発信、共有する。また、研究グループごとにテーマに沿った研究会を年間に複数回実施を予定している。

- 研修会は若手対策事業費を活用し、次世代の若手技術者への技術継承と若手同士の人脈形成を主目的として開催を予定する。研修のほか、若手現地研修会の開催を検討する。「斜面防災危険度評価ハンドブック」をテキストにした地形判読演習を含む研修のほか、地すべり地での現地研修会の開催も検討する。
- 地すべり現地検討会は、2026年9月下旬～10月中旬（1泊2日）の期間で青森県十和田市「鳶川地すべり」での開催を予定している。
- 大規模地すべり等の災害発生時における現地調査として、調査に値する災害情報が提供された場合は、本部と連携を取り調査派遣を検討、実施する。
- 支部だより第37号を2026年12月に発行予定である。
- 支部活動などの情報発信として、支部会員リストを利用した事業開催案内・参加募集、支部ホームページにおける行事の開催報告などを予定している。
- 会勢拡大活動として、講師派遣や市民向け勉強会などを通じた支部事業の宣伝活動（学校や自治体の防災教育、技術研修会への講師派遣など）を行う。「仙台未来フォーラム2027」へのブース出展を予定し、検討を開始している。
- 社会貢献・会勢活動・他学協会との連携について、協賛団体、関連団体・学会と情報共有の推進や災害調査における関連団体及び学会との連携を図る。

※第三号議案に関して質問や意見等は無く原案通り承認可決された。

○第四号議案 2026年度収支予算

- 収支予算について、大澤事務局長より2026年度収支予算案を説明した（議案書p11～12）。
- 収支予算見込みは以下のとおりである。

収益 1,982,500円 支出 2,149,500円 差額 167,000円
 次期繰越額見込み 1,331,875円 - 167,000円 = 1,164,875円

※第四号議案に関して質問や意見等は無く原案通り承認可決された。

○その他・報告事項（議案書p13～16）

- 東北支部組織について、2026年2月17日の役員会にて副支部長に鄒青穎氏（弘前大学）を選出し、副支部長を2名体制とすることを決定した。また、副幹事長 渡辺 修氏の本部理事及び編集委員会部長就任に伴う後任人事として、代議員は次期選挙まで空席とすること、副幹事長（事業企画担当）に応用地質（株）今井 雄輝氏を選任することを報告した。
- 事業運営の活性化を図るための幹事会運営委員への学識者参画として、事業企画委員会と巡検計画委員会に以下の通り、各2名ずつ参画することを決定した。

「事業企画委員会 幹事」

荻野 俊寛氏（秋田大学）

外里 健太氏（八戸工業大学）

「巡検計画委員会 幹事」

本山 功氏（山形大学）

張 海仲氏（山形大学）

- 協賛企業の若手職員を幹事会に参画させ、企画運営の強化を図る。
- 今年度の支部協賛金について、協賛額 2 万円とする。
- 宮城県砂防ボランティア協会総会において、永年の土砂災害防止への貢献を称えて支部運営委員 押見和義氏（（株）復建技術コンサルタント）が表彰を受けた。
- 第 64 回奈良大会において、宮城大会幹事会が「学会活動貢献賞」の表彰を受けた。
- 今後の本部開催事業の報告
- 鄒新副支部長より、副支部長就任にあたっての挨拶があった。

4.閉会

高見副支部長が総会の閉会を告げ終了した。



〔総会開催の様子〕

以上